

概要

英語授業改革セミナー「本気で授業改革！」は、2018年8月に第1回を開催して以来、翌2018年には朝日大学との共同開催を実現し、今回で3回目の実施となった。実施の目的は、大学等における英語教育分野での研究や教育の成果を初等中等教育に還元し、地域の英語教育改革推進に寄与することである。

I. 実施内容

対面のセミナーを計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みて、2020年12月3日にオンラインでの実施に変更した。

内容 明海大学・朝日大学共催 2020英語授業改革セミナー「本気で授業改革！」

開場 9:30
申込後に開講式と基調講演共通のURLを配布

開講式 9:40～9:55

第1部 基調講演
10:00～11:30
演題 「新学習指導要領と学習者の自律」
講師紹介 尾関直子 (おせきなおこ)
明治大学国際日本学部教授、明治大学理事
大学英語教育学会副会長
専門は「自律した学習者」や「学習ストラテジーを中心とした第二言語習得理論」CAN-DOリストなどを使ってタスクを取り入れた授業についての研究・著書多数
近年は明治大学国際日本学研究科において研究者や教育者の育成に力を注いでいる。
(1)13:00から14:15と(2)14:30から15:45の2つの時間帯に分けて実施します。(1)と(2)の時間帯におけるテーマ及び内容は同一です。
※参加申し込み後に下記A・B・CそれぞれのURLをお知らせします。
※(1)は12:50(2)は14:20に接続を開始しますのでお好きなワークショップにご参加ください。
※(1)と(2)で異なるワークショップに参加する際には、(1)のZOOMを退出し、(2)で受講するZOOMのURLからミーティングに入ってください。

記号	校種	講義室	担当者	ワークショップテーマ	時間帯番号
A	高校	2204	発表者：児玉 靖明 三重県立宇治山田商業高校教諭 コーディネーター：亀谷 みゆき 朝日大学 経営学部・英語教育センター	目標・指導・評価の一体化による授業改善 — 発信力の育成を目指して —	(1) 13:00
					(2) 14:30
B	中学校	2205	発表者：北原延晃 上智大学・愛知淑徳大学非常勤講師 (前港区立赤坂中学校) コーディネーター：石橋浩 明海大学 METTS	指導量が10.8%増加！ どうする？ 語彙指導 ～ 北原メソッドなら中学で認知語彙数3000語～	(1) 13:00
					(2) 14:30
C	小学校	2203	発表者：前田隆子 明海大学外国語学部 英米語学科講師 コーディネーター：百瀬美帆 明海大学 METTS	教科書を使った授業実践 — 小・中連携を意識して —	(1) 13:00
					(2) 14:30

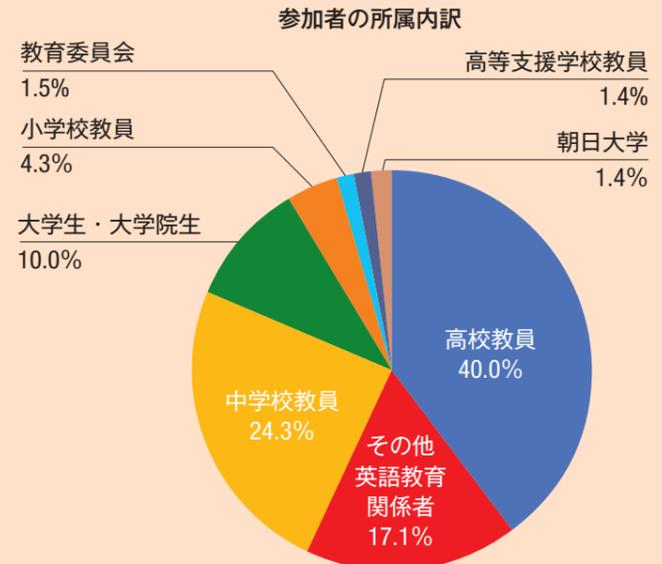
第2部 ワークショップ

すでに申し込まれた方々にはZOOM URLを直接ご連絡いたしますが、12月15日までに届かない場合は、お手数ですが表面のQRコードまたはURLより再度お申込みください。

II. 参加者所属内訳及びコメント

(1) 参加者

北海道から沖縄まで計26都道府県より約120人が参加した。



(2) 基調講演・ワークショップの感想(自由記述を抜粋)

ア 基調講演

何のために英語を学ぶのかということ自身に問い返すことができ、その分野のことも学び learning strategy を意識して授業を作っていきたいと思いました。もう一度お聞きして学びを深めたい内容でした。(中学校教員)

イ ワークショップA

児玉先生の実践例を拝見し、とにかく生徒が自ら英語で表現したくなる工夫が散りばめられており、大変参考になりました。亀谷先生のお話も、何度聞いても新しい気づきと学びがあり、明日からの活力になりました！(高校教員)

ウ ワークショップB

改訂新教科書で大幅に増加する語彙指導について、大きな不安がありました。しかし、発信語彙と受容語彙に分けて指導すること。特に発信語彙をどのように考えるのかという問題には、東京都中英研研究部推奨発表語彙リストを利用して指導していけばよいこと。これからの指導の方向性が見えたワークショップでした。(中学校教員)

エ ワークショップC

外国語教育の流れ、そして学習指導要領のポイントが大変わかりやすくまとめられていました。小学校の先生方は「何を」「どこまで」というところについて不安を覚えているのが現状です。今日のお話をぜひ、もっと多くの小学校の先生方に聞いてもらいたかったです。(英語教育関係者)

III. オンライン技術支援学生のコメント

—3つのワークショップを同時に配信するための技術補助を担当した英米語学科教職課程履修学生3名のうち4年生2名の感想は次の通り—

私は技術補助員として亀谷先生、児玉先生が発表する高校のワークショップに参加しました。お二方の発表をすぐ近くで聴講することができ、とても参考になったとともに将来教員になったとき心掛けるべきことがわかりました。視聴されていた参加者の方々もお二方の明るい話し方もあり終始講話を楽しんでいたと感じました。今回の催しに参加できたことで、教員になった際には細かなところを疎かにせず「本気で授業改革」をしていきたいと思えました。(英米語学科4年中村亮介)

配信補佐を初めて経験しましたが、本番の緊張感がとても強く記憶に残っています。北原先生の講座では中学校英語を取り上げられていて、主に単語の導入に関して重点的に話をされていました。これから教壇に立つ私にとってとても有益な内容でした。また、ブレイクアウトルーム内の会話からは現場の先生方のリアルな反応を聞くことができたので、自分が将来教員となった時、よりわかりやすい授業展開をするための手段として学んだことを活かしたいです。(英米語学科4年内藤卓)

IV. 成果と今後の課題

オンライン実施により遠隔地からの参加も可能となり、日本各地の授業改革に寄与することができた。今回初めて小学校英語を扱うワークショップCを設定したことで、小学校の学級担任ばかりでなく、専科教員、小学生に英語を教える塾講師など参加者の所属が多岐にわたった。一方、オンラインでの実施に関する技術および運営方法の向上が今後の課題として見い出された。